



特定小電力トランシーバー

FTH-108

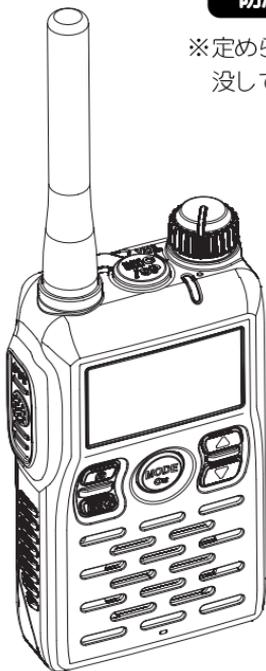
取扱説明書

47チャンネル

交互通話用 20チャンネル
中継通信用 27チャンネル

防浸構造 IPX7(旧JIS保護等級7)※相当

※定められた条件で水深1mの水中に30分間
没しても内部に水が入らないもの



お買い上げいただき、ありがとうございました。
正しくお使いいただくために、この取扱説明書を
よくお読みください。
お読みになった後は、大切に保管してください。

このトランシーバーは国内専用モデルです。
海外では使用できません。

目次

お客様へ	1
防水(防浸)について	1
アフターサービス	1
付属品	2
安全上のご注意	2
各部のなまえ	6
電池の入れかた	8
ベルトクリップの取り付け	9
基本的な通話のしかた	10
交互通話 20 チャンネルタイプと異なるトランシーバーと 通話するには ...	11
ボタンをロックする	12
一時的にモニターをする	12
通話モードの切り替えかた	13
グループモードの設定	14
秘話モードの設定	16
通話可能か常時チェックしたい	18
通話距離をのばすには	20
DCS コードに切り替える	22
緊急を知らせたい	24
相手をコール音で呼び出したい	26
セットメニューによる機能設定	27
故障かな?と思うまえに...	30
正常に動かないとき...	31
定格	32
オプション	33

お客様へ

● 防水(防浸)について

◎ 本機の防水性能を末永く確保していただくために、必ずご使用になる前に下記の項目をご確認ください。

キズ、劣化、外れ、汚れなどの確認

- ・ ボタンやスイッチ類のラバー
- ・ MC/SPジャックのキャップ
- ・ 防水シールと電池を入れる底面フタの防水パッキン

お手入れのしかた

海水・砂・泥などがついたときは、水で洗い流し、柔らかいきれいな布で拭きとってください。必ずMC/SPジャックのキャップと、電池を入れる底面フタを確実に閉めた状態で行ってください。

オーバーホールのお奨め

お買い上げから1年経過した後、前回のオーバーホールを行ってから1年が経過した後、またはキズ、劣化等が確認されたときはオーバーホールをお奨めます。なお、オーバーホール代金は有償となりますのであらかじめご承知ください。

● アフターサービス

◎ 本機は、厳しい品質管理のもとに生産されておりますが、万一運搬中の事故などに伴う“破損”または“ご不審な箇所”がございましたら、お早めにお買い上げいただきました販売店または弊社営業所 / サービスセンターにお申し付けください。また同様に、万一故障したときには、お買い上げいただきました販売店または弊社営業所 / サービスセンターまで修理をご依頼ください。

なお、修理をご依頼になる場合には、故障の発生状況・症状等を具体的にお知らせください。

◎ 保証期間はお買い上げの日より1カ年です。

本製品には保証書が添付されています。お買い上げいただいた日から1年以内に、取扱説明書に従った正常な使用状態で故障した場合には、無料で修理をお引き受けします。

過失など、故障内容によっては、保証期間中であっても有償修理の対象となる場合があります。

◎ 保証書は大切に保管してください。

保証書を紛失しますと、保証期間中に発生した故障でも保証期間が経過したものととして有償扱いにさせていただきますのでご了承ください。

また、お買い上げ日・販売店名等の必要事項が記入してない保証書も無効扱いにさせていただきますので、お買い上げいただきました販売店名・お買い上げ年月日等が正しく記入されていることをご確認のうえ、大切に保管してください。

付属品 ～下記の付属品をご確認ください～

- ◎ 本体 1
- ◎ ベルトクリップ 1
- ◎ 取扱説明書(本書) 1
- ◎ 保証書 1

安全上のご注意 ～必ずお読みください～

本機を安全に正しくお使いいただくために、次のことに十分ご注意ください。

 **危険** 誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

 **警告** 誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 **注意** 誤った使い方をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

 行ってはならない禁止事項です(例  分解禁止)。

 必ず守っていただきたい注意事項です。

危険

 自動車やバイク等を運転しながら使用しない
事故の原因になるだけでなく、道路交通法違反になります。
運転者が使用するときには、車両を安全な場所に止めてからご使用ください。

 航空機内や病院内などの“使用を禁止された区域”では電源を切る
電子機器や医療機器に影響を及ぼす場合があります。

-  引火性ガスの発生する場所や高所などの危険な場所で使用しない
発火事故や落下事故などの原因になります。
-  電池が漏液して皮膚に付着したり、目に入ると危険
化学火傷を起こすおそれがあります。直ちに医者診断を受けてください。
-  電源端子をはんだ付けやショートをしない
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。
ネックレスやヘアピンなどと一緒を持ち運ばないでください。
-  火のそばや、炎天下など高温の場所で充電・使用・放置しない
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。
-  当社指定以外の充電器で、オプションのニッケル水素電池(FNB-107)
を充電しない
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。



警告

-  分解や改造をしない
本機は電波法に基づく無線局です。“証明ラベル”や“製造番号”を剥がしたり、分解や改造をすると違法ですのでおやめください。また、ケガ等の事故や故障の原因になります。
-  本機は“PX7(旧JIS保護等級7)”相当の防浸構造になっていますが、特に海水などがついたときは、なるべく早く真水で洗い流し、乾いた布などで拭きとる。
性能や寿命を低下させる原因になります。
-  汚れを落とす際に、蛇口からの水を直接当てたり、高圧の洗浄機やエアダスターを使用したり、スチーム洗浄をおこなったりしない
性能や寿命を低下させる原因になります。
-  煙が出ている、変な臭いがするときは電源スイッチを切って、ニッケル水素電池(FNB-107)またはアルカリ乾電池を外す
火災や故障の原因になります。お買い上げいただきました販売店または弊社営業所 / サービスセンターに修理をご依頼ください。

注意

-  指定以外のオプションを使用しない
ケガの原因になります。
また、本体の故障や破損の原因にもなります。
-  アンテナを持って、本体を振り回したり投げたりしない
本人や他人に当たり、ケガの原因になります。
また、本体の故障や破損の原因にもなります。
-  アンテナをむやみに折り曲げたりしない
アンテナの変形や破損の原因になります。
-  強い衝撃を加えたり、投げつけたりしない
故障の原因になります。
-  オプションのニッケル水素電池(FNB-107)は、充電器の周囲温度が5℃～35℃の範囲であることを確認して充電する
故障の原因になります。
-  磁気カードなどをトランシーバーに近づけない
キャッシュカードやプリペイドカードなどの内容が消去されることがあります。
-  長時間ご使用にならない場合には、安全のため電源をオフにし、ニッケル水素電池(FNB-107)またはアルカリ乾電池を外す
-  イヤホンを使用するときは音量を大きくしない
聴力障害の原因になることがあります。
-  エマージェンシー機能を使用する場合はイヤホンを使用しない
聴力障害の原因になることがあります。
-  人の多い場所では使用しない
アンテナが他人に当たり、ケガの原因になります。
-  直射日光の当たる場所や熱器具の近くに放置しない
変形や変色等の原因になります。

-  シンナーやベンジンなどでケースを拭かない
変形や変色等の原因になります。ケースが汚れた場合には、中性洗剤を湿した布で軽く拭いて汚れを落とし、乾いた布で拭き取ってください。
-  小さなお子さまの手の届かない場所に保管する
ケガなどの原因になります。
-  ハンドストラップやベルトクリップは、確実に取り付ける
間違った取り付けかたは、落下によるケガやトランシーバー本体の破損などの原因になります。

その他のご注意

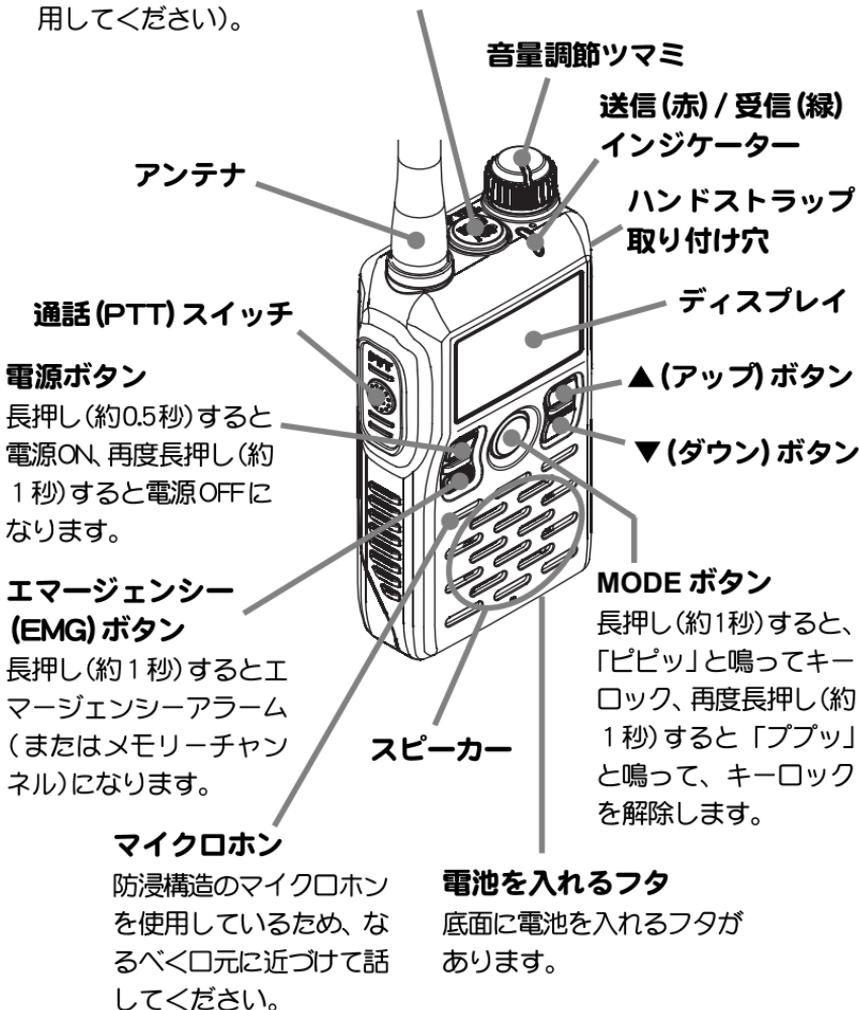
- 他人の会話を聞いて、これを漏らしたり窃取することは法律で禁止されています。
- 防浸構造になっておりますが、水がかかる場所での使用は避けてください。
- ご使用になる環境はそれぞれ異なりますので、全ての状態での防水性能を保証するものではありません。

各部のなまえ

MIC/SP ジャック

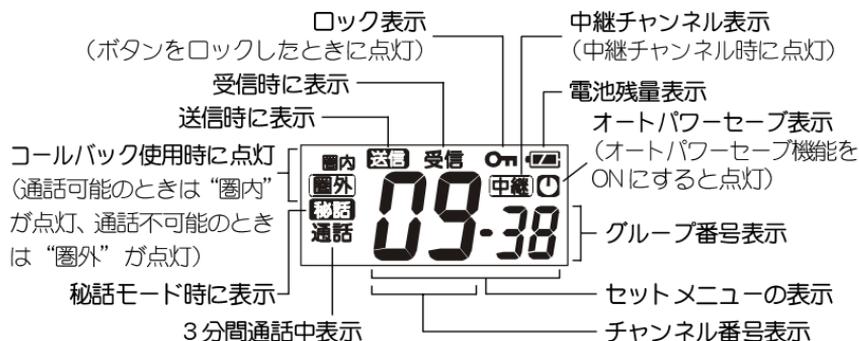
オプションのスピーカー / マイクホンなどを接続する端子です。

- オプションを使用しないときは、キャップをしっかりと取り付けてください(防浸構造ですが、端子保護のために、必ずキャップを使用してください)。



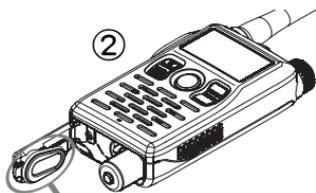
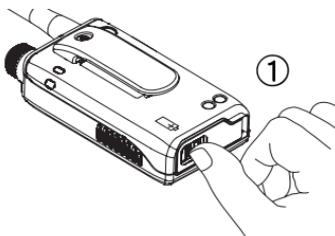
各部のなまえ ~つづき~

ディスプレイ



電池の入れかた

- ①底面フタのロックをスライドして、ロックを解除して開けます。
- ②オプションのニッケル水素電池 (FNB-107) または市販の単三形アルカリ乾電池を(－)側から入れます。
電池の極性(＋－)を間違えないように、注意して入れます。
- ③底面フタを押しながらロックをスライドさせ、確実に押し込んで閉めます。



防水パッキン



防水パッキンにキズ、劣化、外れ、汚れがないか確認してください。

- オプションのニッケル水素電池 (FNB-107) を使用するときは、必ず充電してください。
- オプションのニッケル水素電池 (FNB-107) の充電のしかたは、オプションの「充電器セット VAC-107」の取扱説明書をご覧ください。
- 長時間使用しない場合は、ニッケル水素電池 (FNB-107) またはアルカリ乾電池を取り外しておいてください。
- とくとき底面フタの端子と電池の電極を乾いた布や綿棒で拭いてください。
端子や電極が汚れていると、接触不良となり正しく使用できないばかりではなく、発熱・破裂などの原因になります。
- 電池を交換するときは、電源を切ってください。
- オプションのニッケル水素電池 (FNB-107) または市販の単三形アルカリ乾電池以外の電池は絶対に使用しないでください。
故障や火災の原因になります。

電池の入れかた ～つづき～

■使用時間の目安

使用できる時間の目安※は次のとおりです。

ニッケル水素電池(FNB-107) ➡ 約23時間

アルカリ乾電池 ➡ 約28時間

電池残量はアイコン表示で知らせます。

-  ➡ まだ使えます。
-  ➡ 少なくなりました。
-  ➡ 残りわずかです。
-  ➡ すぐにニッケル水素電池(FNB-107)を充電してください。
(すぐに電池を交換してください。)

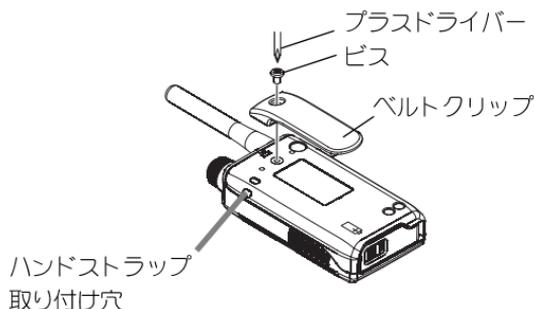
※ 6秒送信、6秒受信、48秒待ち受けの測定条件になります。

上記の使用時間は目安ですので、実際に使用できる時間は、使い方や周囲の温度などによって異なります。

ベルトクリップの取り付け

ベルトクリップをプラスドライバーで確実に取り付けてください。

- 故障の原因になりますので、必ず付属のビスを使用してください。
- 別売オプションのソフトケースLCC-107使用時は、ベルトクリップを取り付けしないでください。



基本的な通話のしかた

本機には、周囲の状況に応じて選べる3つの通話方法(ノーマルモード、グループモード、秘話モード)があります。通話のしかたはどのモードでも同じで、ここでは、基本となるノーマルモードの通話方法を説明し、グループモードについては、14ページの“グループモードの設定”を行い、秘話モードについては、16ページの“秘話モードの設定”を行ってから、下記の方法で通話してください。

① 電源を入れる

電源ボタンを長押し(約0.5秒)すると、電源が入ります。

「ピッ」と電子音が鳴ります。

② チャンネルをあわせる

▲または▼ボタンを押して、相手と同じチャンネルにします。



③ 押しながら話す

通話(PTT)スイッチを押しながらマイク口ホンに向かって話します。

- ・ディスプレイに“送信”と“通話”が表示されます。
- ・通話(PTT)スイッチを離すと、待ち受け状態になり相手の話を聞くことができます。
- ・音量調節つまみをまわして、聞きやすい音量に調節してください。
- ・防浸構造のマイク口ホンを使用しているため、なるべく口元を近づけて話してください。

音量調節つまみ



“通話”と“送信”が表示される

基本的な通話のしかた ～つづき～

交互通話 20 チャンネルタイプと異なるトランシーバーと通話するには

9 チャンネルタイプと通話するときは

チャンネル番号を 1ch ～ 9ch にあわせませす。



11 チャンネルタイプと通話するときは

チャンネル番号を 01ch ～ 11ch にあわせませす。



◎ ▲または▼ボタンを押すと、チャンネルは下記のように変わります。

→ 1 ↔ 2 ↔ 3…7 ↔ 8 ↔ 9 ↔ 01 ↔ 02 ↔ 03…09 ↔ 10 ↔ 11 ←

◎ 相手の声を聞きながら、音量調節ツマミで音量を調節してください。

◎ 相手の声が途切れて聞こえるときは、“一時的にモニターをする”(12 ページ)を参照してください。

◎ 連続して送信できる時間は3分以内で、その間ディスプレイに“通話”が表示されます。

3分間連続して送信し続けると、送信は自動的に停止します。

なお、送信が停止する30秒前になると、ディスプレイに数字でカウントダウン表示され、送信が停止する10秒前には、「ピピピッ」と警告音が鳴ります。

また、送信が停止した場合、その後の2秒間は通話(PTT)スイッチを押しても「プーップーップーッ・・・」と警告音が鳴り送信できません。

● 相手の信号を受信しているときは、送信できません。

ディスプレイに“受信”が表示されているときは、通話(PTT)スイッチを押しても「プーップーップーッ・・・」と警告音が鳴るだけで、送信できません。

ボタンをロックする

誤ってボタンに触れても、チャンネルなどが変わらないようにすることができます。

- ボタンをロックすると、セットメニューによる設定の変更、DCSモードの切り替えやオールリセットもできなくなります。これらの操作は、ロックを解除してから行ってください。

ボタンをロックするには

MODE ボタンを長押し(約1秒)すると、「ピピッ」と鳴ってボタンがロックされます。

“On” が点灯します。

再度 MODE ボタンを長押し(約1秒)すると、「プッ」と鳴ってボタンのロックが解除されます。

“On” が消えます。



一時的にモニターをする

受信信号の状態を、一時的にモニターする機能です。

① 電源を切る

電源ボタンを長押し(約1秒)すると、電源が切れます。

② ▼ボタンを押しながら電源を入れる

モニターを解除するには、一度電源を切り、再度電源ボタンを長押し(約0.5秒)して、電源を入れます。



通話モードの切り替えかた

通話を行うモード(通話モード)として、次の3通りの方法があります。
周囲の状況に応じて使い分けてください。

ノーマルモード ➡ 他のグループの通話が聞こえる心配がないとき。

グループモード ➡ 他のグループの通話が聞こえてわずらわしいとき。

チャンネル番号とグループ番号が一致すると通話ができます。

秘話モード ➡ 他の人に通話を聞かれたくないとき。

通話モードを切り替えるには

MODE ボタンを押すたびにモードが切り替わります。

・初期値はノーマルモードに設定されています。

9 ch

ノーマルモード



9-01

グループモード



秘話 9 ch

ノーマル+秘話モード



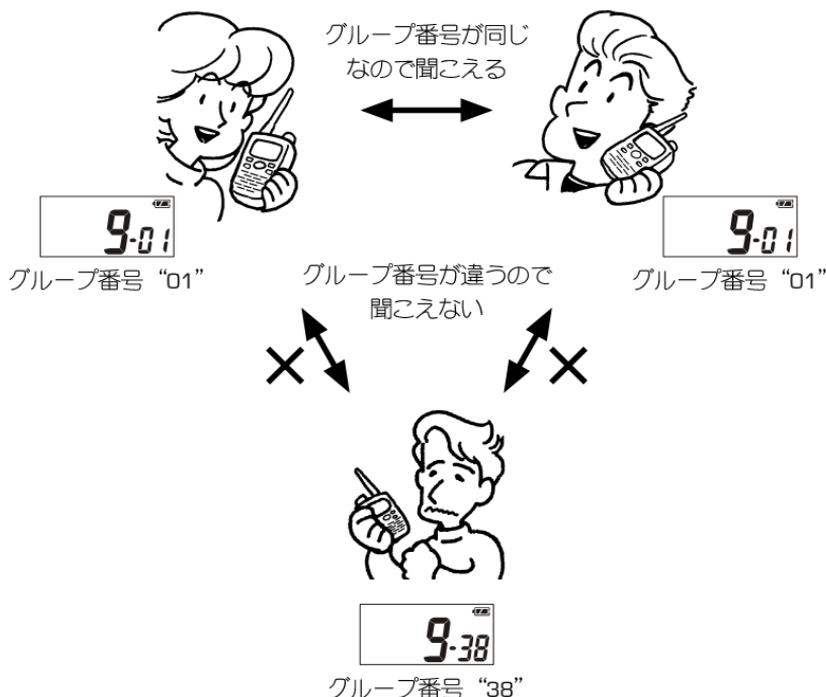
秘話 9-01

グループ+秘話モード



グループモードの設定

「同じチャンネルで、他のグループの通話が聞こえてわずらわしい」そんな時に、あらかじめ同じグループ番号に設定しておく仲間同士の音声だけが聞こえます。



グループモードにすると、受信終了時の「ザーツ」音をカットして聞きやすくなりますので、オプションのタイピンマイクなどを使用される場合は、グループモードで使用されることをお奨めします（詳細は29ページに記載してある“セットメニューによる機能設定”の“PTTディレイ機能のON/OFF”を参照してください）。

グループモードの設定 ～つづき～

① MODE ボタンを押す

グループモードにします。

② 電源を切る

電源ボタンを長押し(約1秒)すると、電源が切れます。

③ MODE ボタンを押しながら電源を入れる

セットメニューの“GP-01”が表示されます。



④ グループ番号を選ぶ

▲または▼ボタンを押して“01～38”の中から任意のグループ番号を選択します。



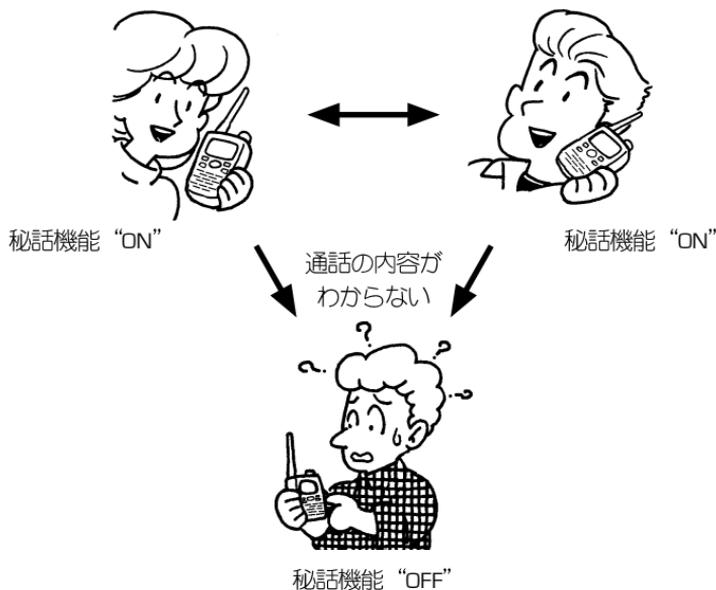
⑤ 通話 (PTT) スイッチを押す

セットメニューの設定が終了します。
“基本的な通話のしかた”(10ページ)と同様に通話します。
他人の通話が聞こえる場合は、グループ番号を変更してください。



秘話モードの設定

秘話モードに設定していない人は、通話内容を聞き取れなくなります。
秘話モードは、ノーマルモード、グループモードのどちらでも使用することができます。



- 仲間同士以外でも、同じチャンネルで秘話機能を動作させていれば、通話内容を聞かれる場合がありますので、重要な内容の交信は控えるようにしてください。
- 秘話機能付トランシーバーでも、機種が違うと、交信できない場合があります。

秘話モードの設定 ～つづき～

① 秘話モードに切り替える

“秘話” が点灯するまで、MODE ボタンを何度か押します。



ノーマル+秘話モード



グループ+秘話モード



② “基本的な通話のしかた”(10ページ)と同様に通話します。

通話可能か常時チェックしたい ～コールバック機能～

グループモード時に、コールバック機能を使用すると、「通話できる範囲にいるか」または「電源を切っていないか」、常時チェックしながら通話ができます。



通話できない時は
“圏外” が点灯



通話できる時は
“圏内” が点灯



■通話可能か確認するには（電子音とディスプレイの表示で確認できます）

	状 況	電子音	表 示
通話可能	<ul style="list-style-type: none"> 相手と通信できる範囲にいる 相手の電源が入っている 	約 1 分後に一度だけ「ピピッ」と鳴る	電子音が鳴った後 “圏内” が点灯する 
通話不可能	<ul style="list-style-type: none"> 相手と通信できない場所にいる 相手の電源が切れている 	約 1 分後に一度だけ「ブブッ」と鳴る	電子音が鳴った後 “圏外” が点灯する 

通話可能か常時チェックしたい ~つづき~

- ① MODE ボタンを押してグループモードにします。

仲間同士で決めたグループ番号とチャンネル番号になっているか確認します。異なる場合は、“グループモードの設定”(14ページ)を参照して、同じグループ番号とチャンネル番号に切り替えてください。



- ② 電源ボタンを長押し(約1秒)して、電源を切ります。
- ③ MODE ボタンを押しながら、再度電源ボタンを長押し(約0.5秒)して、電源を入れます。
- ④ MODE ボタンを1回押して“cb-oF”を選択します。

グループ番号



- ⑤ ▲ボタンまたは▼ボタンを押して“cb-on”にします。



- ⑥ 通話(PTT)スイッチを押します。

セットメニューの設定が終了し、ディスプレイに“圏外”が点灯します。



- ⑦ “基本的な通話のしかた”(10ページ)と同様に通話します。

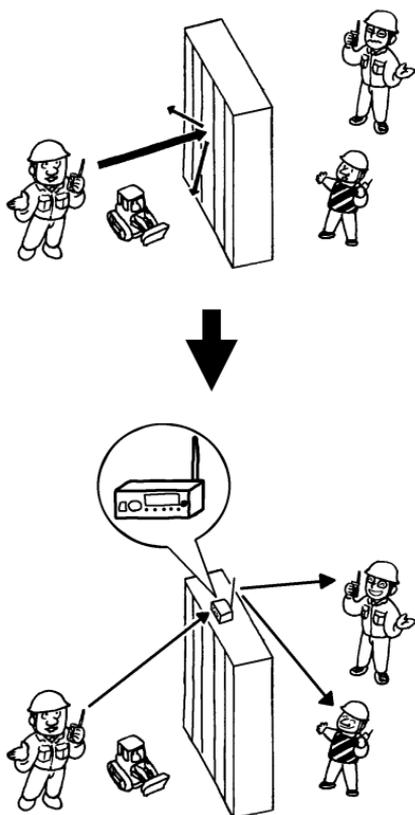
○ 同じチャンネルで同じグループ番号が他の使用者に使われているときは、“グループモードの設定”(14ページ)を参照して、仲間同士で他のグループ番号に切り替えてください。

● 他のグループの人が同じチャンネルを使って通話している時は、音声は聞こえませんが、受信状態(ディスプレイに“受信”が表示)になり、通話できません。

通話距離をのぼすには ～中継機能～

途中にビルなどの障害物がある場合や、相手との距離が離れている場合など、電波が届かずに通話できないときは、当社の中継器“RP88”を中間点に設置することにより、交信範囲が広がります。

なお“RP88”の詳細については、お買い上げいただきました販売店または弊社営業所/サービスセンターにお問い合わせください。



- メモリーチャンネル(25ページ)を設定した後で、次ページの中継機能用チャンネルの追加または、削除を行った場合は、“Ec”の設定が“2”から“1”になり、メモリーチャンネルが消去されますので、再度メモリーチャンネルを設定しなおしてください。

通話距離をのぼすには ～つづき～

■設定のしかた

下記の操作を行うと、中継機能用のチャンネル(合計27チャンネル)が追加されます。

- ① 電源ボタンを長押し(約1秒)して、電源を切ります。
- ② ▲ボタンを押しながら、再度電源ボタンを長押し(約0.5秒)して、電源を入れます。
中継機能用のチャンネルが追加されます。
- ③ ▲または▼ボタンを押すたびに、チャンネル番号が変わります。



■設定を解除するには

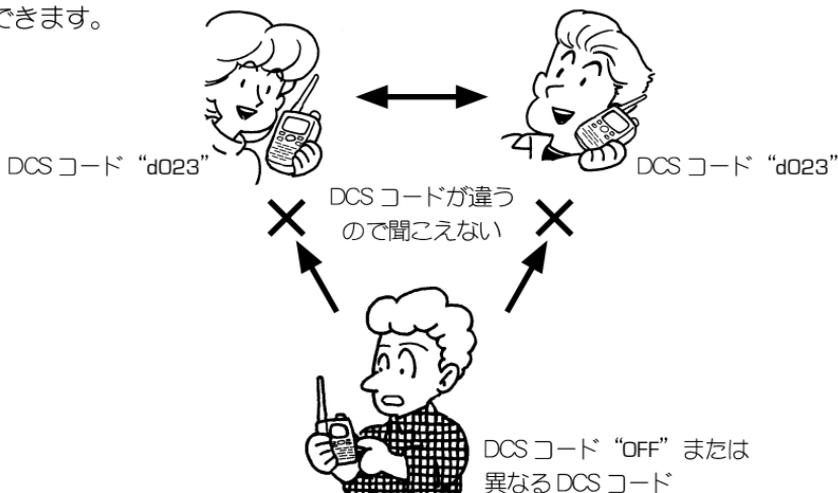
- ① 電源ボタンを長押し(約1秒)して、電源を切ります。
- ② ▲ボタンを押しながら、再度電源ボタンを長押し(約0.5秒)して、電源を入れます。

■通話のしかた

- ① ▲または▼ボタンを押して、中継用チャンネルの中で“RP88”と同じチャンネル番号にあわせませす。
 - ② “基本的な通話のしかた”(10ページ)と同様に通話します。
- グループモードを使用することができます(中継器と同じグループ番号にあわせてください)。
- 当社指定の中継器のみ使用可能です。

DCS コードに切り替える

グループモードで、グループコード(38種類)が不足した時など、グループコードに替えて、104種類のDCSコード(d023～d754)を使用することができます。



- 中継機能(20 ページ)を使用するときは、DCS コードを使用することはできません。

■設定のしかた

- ① 電源ボタンを長押し(約1秒)して、電源を切ります。
- ② EMG(エマージェンシー)ボタンを押しながら、電源ボタンを長押し(約0.5秒)して、電源を入れます。
- ③ DCS コード設定状態になり(“OFF” が点滅しています)、▲または▼ボタンを押して、“d023～d754”の中から、希望のDCSコードを選択します。
- ④ 通話(PTT)スイッチを押します。
DCSコードが設定され、グループコードの代わりに“dc”が表示されます。
- ⑤ “通話モードの切り替えかた”(13ページ)のグループモードと同様に通話することができます。



通話(PTT)スイッチ以外に、電源ボタンを長押し(約1秒)して電源を切っても、DCSコードの設定を完了させることができます。

DCS コードに切り替える ～つづき～

■設定の解除・変更のしかた

- ① 電源ボタンを長押し(約1秒)して、電源を切ります。
- ② EMG(エマージェンシー)ボタンを押しながら、電源ボタンを長押し(約0.5秒)して、電源を入れます。
- ③ 現在設定されているDCSコード“dXxx”が点滅するので、▲または▼ボタンを押して、“oFF”(解除)または別のDCSコードを選択します。



- ④ 通話(PTT)スイッチを押します。

DCSコード設定が終了し、“oFF”にした場合は、DCSコードを設定する前に使用していたグループコードが表示され、別のDCSコードに設定した場合は、新しいDCSコードに設定され“dc”が表示されます。

■DCSコードの確認

- ① 電源ボタンを長押し(約1秒)して、電源を切ります。
- ② EMG(エマージェンシー)ボタンを押しながら、電源ボタンを長押し(約0.5秒)して、電源を入れます。
- ③ 現在設定されているDCSコード“dXxx”が点滅します。
- ④ 確認が終わったら、通話(PTT)スイッチを押します。



■メモリーチャンネルに設定されているDCSコードの確認

- ① 電源ボタンを長押し(約1秒)して、電源を切ります。
- ② EMG(エマージェンシー)ボタンを押しながら、電源ボタンを長押し(約0.5秒)して、電源を入れます。
- ③ 現在設定されているDCSコード“dXxx”が点滅します。
- ④ EMG(エマージェンシーボタン)を短く押すと、メモリーチャンネルに設定されているDCSコードが、約2秒間表示されます。
○メモリーチャンネルにDCSコードが設定されていない場合は、“ポツ”と音が鳴ります。
- ⑤ 確認が終わったら、通話(PTT)スイッチを押します。



緊急を知らせたい ～エマージェンシー機能～

緊急アラーム音で、緊急を知らせたり、あらかじめ決めておいた緊急連絡用のチャンネル(メモリーチャンネル)に自動的に切り替えることができます。

エマージェンシー機能を使用するためには、あらかじめセットモードの“Ec”(エマージェンシー機能の設定:29ページ)を、アラーム(“1”)またはメモリーチャンネル(“2”)から選択する必要があります(初期値は“1”)。

設定方法は27ページをご覧ください。

■アラーム(セットモードの“Ec”を“1”に設定した場合)

EMG(エマージェンシー)ボタンを1秒以上押すと、エマージェンシー機能が動作し、自動的にスピーカー音量が最大になり、“ピーッ
ピーッピーッ・・・”とアラーム音が鳴り続け、周囲の人に緊急を知らせることができます。



- ◎ チャンネルとグループコード(DCSコードが設定されているときは“dc”)が点滅します。
- ◎ 一度通話(PTT)スイッチを押すと、4秒間隔で“ピーッ”を送信し、相手のスピーカーからも“ピーッ”音を鳴らして呼び続けることができます。
- ◎ 通話(PTT)スイッチを押している間、アラーム音を中断して通話することができます。また、受信側もアラーム音を中断して、受信することができます。
- アラームに設定する場合は、イヤピースマイクロホン、ヘッドセット、イヤホンなどは、トランシーバーに接続しないでください。
- エマージェンシー機能が動作中は、▲/▼ボタンおよびMODEボタンは動作しませんので、チャンネルやモードの切り替えを行うことはできません。
- 秘話モードを設定しているときにアラーム音を受信すると、アラーム(ピー音)の音程は少し低くなります。

緊急を知らせたい ~つづき~

■メモリーチャンネル(セットモードの“Ec”を“2”に設定した場合)
EMG(エマージェンシー)ボタンを1秒以上押すと、エマージェンシー機能が動作し、あらかじめ設定したメモリーチャンネルに切り替わります。

- ◎チャンネルとグループコード(DCSコードが設定されているときは“dc”)が点滅します。
- ◎メモリーチャンネルで通話(緊急連絡)ができます。
- エマージェンシー機能が動作中は、▲/▼ボタンおよびMODEボタンは動作しませんので、チャンネルやモードの切り替えを行うことはできません。

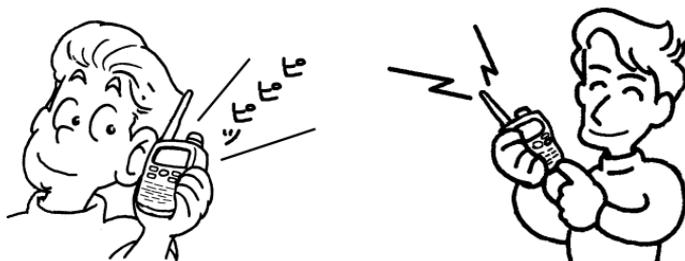
メモリーチャンネルの設定方法

- ① ▲または▼ボタンを押して、メモリーチャンネルにしたいチャンネル番号にあわせ、MODEボタンで希望のモードに切り替えます。
- ② 電源ボタンを長押し(約1秒)して、電源を切ります。
- ③ MODEボタンを押しながら電源ボタンを長押し(約0.5秒)して、電源を入れます。
セットメニューの“GP-xx”が表示されます。
- ④ MODEボタンを押すたびに、セットメニューが切り替わりますので、“Ec-1”を選択します。
- ⑤ ▲または▼ボタンを押して、点滅している数字を“2”にあわせませう。
- ⑥ 通話(PTT)スイッチを押します。
メモリーチャンネルが設定され、設定を行う前の状態に戻ります。
- ◎メモリーチャンネルを変更する場合は、再度上記の操作をおこない、操作⑤で数字を“1”にあわせて、“アラーム”にしてください。その後、再度上記①から⑥の操作をおこなってください。

■エマージェンシー(アラーム/メモリーチャンネル)機能を終了するには
EMG(エマージェンシー)ボタンを1秒以上押すが、電源を切ると、エマージェンシー機能がOFFになります。

相手をコール音で呼び出したい ～コール機能～

信号を受信した相手を、コール音(ピピピッ・・・)で呼び出すことができます。



- ① 仲間同士で決めた DCS コードを設定します(22 ページ)。
- ② 仲間同士で決めたチャンネル番号にあわせます。
- ③ “dc” が表示されるまで、MODE ボタンを何度か押し
ます。



“dc” を表示させる

- ④ **EMG**(エマージェンシー) ボタンを短く押すと、信号を受信した相手を
コール音(ピピピッ・・・)で、呼び出すことができます。
- 相手の信号を受信しているとき(ディスプレイに“受信”が表示されてい
るとき)は、**EMG**(エマージェンシー) ボタンを押しても“プーッ
プーッ”と警告音が鳴るだけで、コール音で呼び出すことはできません。

セットメニューによる機能設定

本機には 12 種類のセットメニューがあります。
各メニューの設定を変更するときは次の手順で行います。

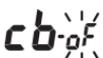
- ① 電源ボタンを長押し(約 1 秒)して、電源を切ります。
- ② **MODE** ボタンを押しながら電源ボタンを長押し(約 0.5 秒)して電源を入れます。
セットメニューの“GP-xx”が表示されます。
- ③ **MODE** ボタンを押すたびに、セットメニューが切り替わります。
設定したいメニューを選択します。
- ④ ▲または▼ボタンを押して、点滅している設定項目を選択します。
- ⑤ 通話(PTT)スイッチを押します。
セットメニューの設定が終了します。



例：“cb-xx”を選択



通話(PTT)スイッチ以外に、電源ボタンを長押し(約 1 秒)して電源を切っても、セットメニューの設定を終了することができます。

ディスプレイ表示	機能説明	選択項目	初期値
	グループコード(01～38)の選択 グループコードの番号を選択します。 注意：DCSコードを使用中にグループコードを変更した場合は、DCSコードを“oFF”(解除)にするまで、変更が反映されません。	01～38	01
	コールバック機能のON/OFF ONにすると、通話できる範囲にいるか、または電源を切っていないか、常時チェックできます。	OFF/ON	OFF

セットメニューによる機能設定 ～つづき～

ディスプレイ表示	機能説明	選択項目	初期値
Sc OFF	<p>スキャン機能の ON/OFF</p> <p>自動でチャンネルを切り替えながら信号を探す機能です。信号を受信するとスキャンが一時的に停止し、信号がなくなると、約 10 秒後に再びスキャンが開始します。</p> <p>ON にすると▲または▼ボタンを長押し(約 1 秒)したときに、チャンネル*をスキャンすることができます。スキャン中に▼または▲ボタンを押すと、スキャン方向を変えることができます。スキャンを止めるにはMODE ボタンまたは通話(PTT)スイッチを押してください。</p>	OFF/ON	OFF
bP OFF	<p>ビーブ音の ON/OFF</p> <p>ボタンやスイッチを押したときに、確認音として電子音が鳴ります。この音が耳障りなときはOFF に設定してください。</p>	ON/OFF	ON
LP 2	<p>照明ランプ設定</p> <p>通常は2 に設定されており、ボタンを押すと照明ランプが約 2 秒間点灯します。OFF にすると、照明ランプを常時消灯することができます。</p>	2/OFF	2
RP OFF	<p>オートパワーセーブの ON/OFF</p> <p>ON にすると、ディスプレイに“⓪” が点灯し、2 時間操作しないと電源の切り忘れとみなし、自動的に電源を OFF にします。1 分前に「ピピッ」と警告音が鳴り、電源が切れます。</p>	OFF/ON	OFF
c5 1	<p>コールサイン(1～5)の選択</p> <p>本機にコールサイン(1～5のいずれかの数字を電子音の回数で送信します)を設定することができます。送信中にMODE ボタンを押すと、押している間だけ、相手にコールサインを送ることができます。</p> <p>数字 電子音</p> <p>1 ビョッ</p> <p>2 ビョッ ビョッ</p> <p>3 ビョッ ビョッ ビョッ</p> <p>4 ビョッ ビョッ ビョッ ビョッ</p> <p>5 ビョッ ビョッ ビョッ ビョッ ビョッ</p>	1～5	1

セットメニューによる機能設定 ～つづき～

ディスプレイ表示	機能説明	選択項目	初期値
PD-ON	PTTディレイ機能のON/OFF(グループモード) 相手の信号を受信してから、待ち受け状態になるときに「ザーツ」と出る耳障りなノイズ音をカットして受信します(相手のトランシーバーも、PTTディレイ機能をONにしてください)。	ON/OFF	ON
トP-OFF	送信禁止機能のON/OFF(ガイドシステム子機などに使用のとき) ONに設定すると、通話(PTT)ボタンを押しても「プープー・・・」と警告音が鳴り、ディスプレイに“Err”と表示されて送信できません。	OFF/ON	OFF
Ph-OFF	PTTホールド機能のON/OFF(内蔵マイクのみ) ONに設定すると、通話(PTT)スイッチを一度押すと送信状態のままになり、もう一度押すと受信に戻ります。連続送信時間は最大で3分間で、3分が経過すると、自動的に受信状態に戻り、約2秒間「プープーツ」と警告音が鳴ります。もう一度送信する場合は、再度通話(PTT)スイッチを押してください。 外部マイクの通話(PTT)スイッチでは、この機能は動作しません。	OFF/ON	OFF
EG-2	外部マイクの感度設定(外部マイクのみ) 外部マイクの感度を、小(1)、標準(2)、大(3)から選択することができます。	1 / 2 / 3	2
Ec-1	エマージェンシー機能の設定(アラームまたはメモリーチャンネルの選択) “1”：緊急アラーム音で緊急を知らせる“アラーム”の動作になります。 “2”：あらかじめ決めておいた緊急連絡用のチャンネル(メモリーチャンネル)に自動的に切り替わります。	1 / 2	1

※ 中継機能用のチャンネル(21ページ参照)が追加されていない場合は、“9チャンネルグループ”と“11チャンネルグループ”内のチャンネルをスキャンしますが、中継機能用のチャンネルが追加されている場合は、スキャンを開始したチャンネルグループ内だけをスキャンします。

1, 2, 3...9

9チャンネル
グループ

01, 02, 03...11

11チャンネル
グループ

10, 11, 12...18

中継用 9チャンネル
グループ

12, 13, 14...29

中継用 18チャンネル
グループ

故障かな？ と思うまえに...

間違った操作をしていませんか？

修理を依頼される前に、ちょっとお確かめください。

◎ 電源が入らない！

- 電池は正しく取り付けてありますか？
電池の極性(+-)をご確認ください。
- 電池は消耗していませんか？
- ニッケル水素電池(FNB-107)は十分に充電してありますか？

◎ 送信できない！

- 通話(PTT)スイッチを正しく押していますか？
- 送信禁止機能が ON になっていませんか？
- PTT ホールド機能が ON のときに、外部マイクを使用していませんか？
- 相手が話し中ではありませんか？
信号を受信してディスプレイに“受信”が点灯しているときは、送信できません。
- 外部マイク使用の場合、きちんと緩みなく接続されていますか？

◎ 通話できない！

- 相手と同じ通話モード(ノーマルモード・グループモード・秘話モード)に設定していますか？
- 相手と同じチャンネルに設定していますか？
- 相手と同じグループ番号(またはDCSコード)に設定していますか？
- 相手との距離が離れすぎていませんか？

◎ 勝手に電源が切れる！

- オートパワーセーブ機能が設定されていませんか？
- 電池が消耗していませんか？
- ニッケル水素電池(FNB-107)は十分に充電してありますか？

◎ グループモードで運用中に他の人の通話が聞こえる！

- モニター機能になっていませんか？
電源ボタンを長押し(約1秒)して電源を切り、再度電源ボタンを長押し(約0.5秒)して電源を入れると解除されます。
- 他の人も同じグループ番号やDCSコードを使用している場合があります。
グループ番号または、DCSコードを変えてください。

正常に動かないとき ～オールリセット～

スイッチを押しても反応しないときや、『故障かな?と思うまえに・・・』の項目に従って点検しても正常に動作しないときは、次の操作を行ってください。

- リセットを行うと、登録した内容はすべて消され、工場出荷時の“初期値”に戻ります。
- ① 一度、電源ボタンを長押し(約1秒)して、電源を切ります。
- ② ▲ボタン、▼ボタン、MODE ボタンを同時に押しながら、電源ボタンを長押し(約0.5秒)して、電源を入れます。
- ③ 「ピッ」と鳴り、オールリセットされます。

定 格

送受信周波数	: 1ch ~ 9ch: 422.2000MHz ~ 422.3000MHz
(12.5kHz ステップ)	01ch ~ 11ch: 422.0500MHz ~ 422.1750MHz
	中継装置使用時:
	10ch ~ 18ch: 送信 440.2625MHz ~ 440.3625MHz
	受信 421.8125MHz ~ 421.9125MHz
	12ch ~ 29ch: 送信 440.0250MHz ~ 440.2375MHz
	受信 421.5750MHz ~ 421.7875MHz
電波型式	: F3E
通信方式	: 単信および半複信方式
送信出力	: 10mW 以下(電波法施行規則第6条適合)
受信感度	: - 8dB μ 以下(@ 12dB SINAD)
低周波出力	: 20mW 以上(@ 4 Ω 、THD10%)電源電圧 1.2V 時
動作温度範囲	: - 10°C ~ + 50°C
定格電圧	: DC 1.2V
動作電圧範囲	: DC 1.0V ~ 1.7V
本体寸法	: 54.0 × 95.0 × 24.7mm
	(幅×高さ×奥行き: アンテナおよび突起部を含まず)
本体重量	: 約 143g(アルカリ乾電池を含む)

この定格は性能向上のため予告なく変更することがあります。

オプション

オプションのマイクを接続するときは、十分に締めこんでご使用ください。
締め込みが不十分な場合、通話できないことがあります。

- ◎ ニッケル水素電池：FNB-107
- ◎ 2連式充電器セット：VAC-107
- ◎ 防浸型スピーカー/マイクロホン：MH-73A4B
- ◎ スピーカーマイクロホン：MH-57A4B
- ◎ タイピンマイク：MH-62A4B
- ◎ タイピンマイク(オープンイヤーイヤホンタイプ)：EK-313-107
- ◎ 小型タイピンマイク(耳かけイヤホンタイプ)：MH-381A4B
- ◎ VOXヘッドセット：VC-24
- ◎ イヤホンアダプター(3.5Φモノラルイヤホン用)：CT-101
- ◎ ソフトケース：LCC-107
- ◎ インターコム型ヘッドセット：YH-100
- ◎ スポーツ/工事ヘルメット用ヘッドセット：YH-101A
- ◎ PTTケーブル (YH-100、YH-101A用)：CT-87



販売元・株式会社スタンダード

URL:<http://www.standard-comm.co.jp/>

〒153-8645 東京都目黒区中目黒 4-8-8

製造元・株式会社パーテックススタンダード

〒153-8644 東京都目黒区中目黒 4-8-8



EC087U000 0901?-0E
株式会社エクセリ 東京都中央区日本橋浜町2-20-6 / 大阪府大阪市淀川区西中島6-3-32
お問い合わせ総合ダイヤル 0120-880-200